

目標 社会教育の現状・課題を学ぶ

① 社会教育とは

学校以外の場で、主に青少年や成人に対して行われる組織的な教育活動のこと。

人々の幅広い学習ニーズにこたえ、国及び地方公共団体によって奨励されなければならないものである。



② 受け入れ先

社会教育研究集会

『月刊社会教育』の読者のつどいとして1961年に始まった集会。今年で62回目を迎える。全国各地から各自の関わる実践と問題を持ち寄り、学びあいながら、思いや悩みを受けとめあいつつ、共同的な理論と実践の創造を目指している。

期間：R5.4.15～9.19（計15日）

場所：大阪観光大学など



③ 活動内容

- ・集会広報誌「速報」の作成
広報班を中心に、R5.3～R5.11までに計11号を発行。そのうち〇号で記事を作成した。
- ・月刊社会教育12月号集会参加記の作成
- ・zoom会議への参加
- ・現地・全国世話人会（プレ集会）への参加
広報誌「速報」作成のための取材活動や事務作業
- ・事務作業
資料送付先の住所入力
看板・横断幕の作成



④ インターンを通して学んだこと

社会教育に関わる人の高齢化や専門職員の非正規化・外部化が進んでいるという現状から、教育環境は完全に整備されているわけではないことを学んだ。その一方で、少子高齢化により財政難が進む地方都市では、環境の整備は無制限にできるものではない。学ぶ権利は人として生きるために尊重されなければならないものであり、地域・企業・行政など様々な主体が学ぶ環境づくりを行っていかなければならないと感じた。また、学びの内容は多種多様であり、時代によっても変化する。地域コミュニティの衰退の衰退を防ぐためにも、公民館など、あらゆる人が自ら学ぶ環境を作ることのできる場所が今後さらに重要になると考えられる。

⑤ 今後の課題

社会教育はあらゆる場で行われているため、携わる人々も少なくはないが、活動が社会教育の一環であると気づいていない場合が多い。特に、学ぶ権利は、スマホやパソコンですぐに調べることができる環境で育ってきた若い世代にとっては、「権利」であるという認識が生まれにくいのではないかと感じた。権利意識の育成が今後の課題である。